

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.176

2014/07/31

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 獣害対策に本腰を入れる



中央湿原も防獣ネット・波板の設置完了(14/07/18)

年々ひどくなる獣害は、放置すれば種の絶滅もあり得る段階にまで及んできた。残念なことだが、既にこの森には無くなったのではないかと考えられるものも出始めてきました。それほどに獣害は深刻です。これは単に1種の植物が無くなったという小さな問題ではありません。それは生きもの同士がつながっているからです。南部湿原のミツガシワは既報の通り、食害防止活動の結果本格的な再生が実現しています。この成果を中央湿原・北部湿原にも延長することにし、7月18日の保全活動の日は200枚を超える波板の運搬と設置作業を行いました。引き続き北部湿原での設置を行います。このように設置は終わっても、スチール線入りのネットが食いちぎ



波板の運搬(14/07/18)



中央湿原での波板設置作業(14/07/18)

シカ用ネット

イノシシ用波板

られたり、倒されることもあるため日々の巡視が欠かせません。これは本会の実働会員数からするとかなりの負担になります。多くの会員の協力を是非よろしくお願いします。これで防獣ネット等を設置したのは、天然更新試験地・南部湿原・中央湿原・(北部湿原)・ミヤコアザミ育種地2箇所・ブナ植栽地・ササユリ保護地4箇所(金網で保護している株は別)とになり合わせて11箇所になりました。保護すべき場所は他にもありますが、これ以上増やすのは経済的・巡視の労力等を考えると難しいところです。本会の活動が始まった当初は、保全活動の結果次々と成果が現れ活動にも明るさを感じつつやれましたが、今では種の減少が目に見えるようになってきたのは悲しい現実です。これは何も山門水源の森だけの問題ではなく、広く日本全体の問題でもあります。どこまで保全出来るかがこれからの課題でもあります。



食害に抗するするためには、増殖もひとつの解決手段。昨秋播種したエゾリンドウ・リンドウ・ユキグニミツバツツジが発芽し順調に生育している。秋霖の頃に植え替えを行い大きく育ててから食害に遭いにくい場所に植栽をしてゆくことにします。



エゾリンドウ



ユキグニミツバツツジ



リンドウ

付属湿地の除草作業も相変わらず続いています。梅雨明けと同時に植物の生育が急激に進み、繁茂に抗することが難しい状態です。この作業中には日ごろ目に止まらない湿地の生物の動きが観られ



手を掛ければ増えるトキソウ(14/07/17)



カナヘビトカゲの卵(14/07/14)



モリアオガエルを捕らえたイシガメ(14/06/27)



ヤゴを喰いに集まるイモリ(14/07/20)

るといふ楽しみもあります。



天然更新試験地植生調査(14/07/24)



キアシグロタケ(14/07/22)

天然更新試験地の植生調査を 7/23 から始めました。今回は伐採後 4 回目の調査です。獣害防止ネットの有無による被植の違いは言うまでもありませんが、調査区による実生の生え具合や食害の程度の差など興味深い結果です。この調査は 8 月も続きます。この地点には、夏原グラントの助成により 3 台のビデオをセットしており、日々いろいろな動物が往来しています。このことについては次号で報告します。